

湯沢の新電力

秋田銀・北都銀が出資

ファンド活用

性を後押しする。

秋田銀行は「あきた地域活性化支援ファンド2号」が、北都銀行はフィデアキャピタル(山形市)と共同出資した「北都成長応援ファンド投資事業組合」が、それぞれ150万円を出資する。

ローカルでんきは湯沢地域の電力事業者や行政、金融機関などで設立した「湯沢市再生可能エネルギー」地産地消推進協議会」のメンバーが主体となり、県内企業7社の出資で設立された。

4月から日本卸電力取引所から電気を調達し、

湯沢地域の事業者に供給する。初年度は3億円の売り上げが目標で、「将来は地域の再生エネルギーを仕入れてエネルギーの地産地消を目指す」(山内雄司社長)。

秋田銀行と北都銀行は24日、昨年11月に設立された新電力会社、ローカルでんき(秋田県湯沢市)に出資すると発表した。

担保に依存せず企業の成長性に基づく「事業性評価」によって出資するファンドを活用する。湯沢市でエネルギーの「地産地消」を目指すローカルでんきを支援し、地域活